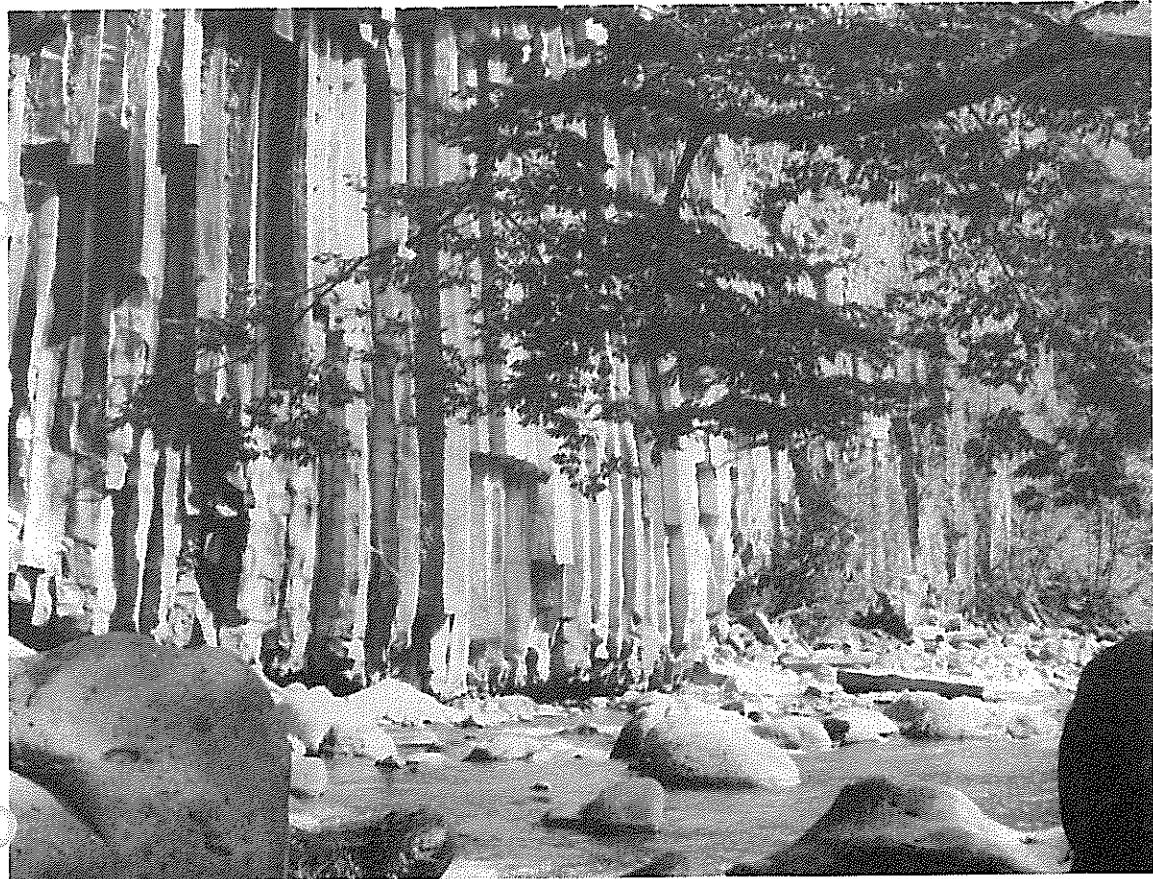


岩手郡医報

昭和61年6月 No.19
編集／発行
岩手郡医師会



玄武洞（天然記念物）

零石町西山地内葛根田川の上流にある。

岩手山の旧期噴出により安山岩が巨大な柱状節理をなし、渓流にそびえ立っている。高さ約70メートル、巾160メートルに及ぶ。
・形も大きく五角柱か四角柱の見事なものである。

写真左手川上に河蝕による高さ10メートル、巾40メートルにも及ぶ洞窟がある。洞中にはかずかずの伝説を秘めている。（宮杜）

岩 手 郡 医 報

I 発刊の遅延に対する御詫び

本来医報は月1回発刊するのが理想であり、私共郡医師会も当初はその計画で始めましたが、仲々月1回というのは言うに易く実施が困難でした。

理由は色々ありますが大別すると次の2つが最大の原因で、2月に1回となり、次いで3ヶ月に1回となった訳です。

- (イ) 専任の事務職員の無いこと。
- (ロ) 原稿が仲々集まらないこと。

今回は1年分をまとめて記載しますので、悪しからずご了承下さい。

II 会長退任の挨拶

私事、昭和61年1月25日を以って満77才となり、岩手県医師会の定めにより昭和61年2月より医師会関係の会費（賠償保険を除く）が納めなくてもよい老齢会員となりました。

それで昭和60年12月19日開催の役員会（岩手町 奈良屋）に於て次期は勇退の表明をした次第です。翌昭和61年1月12日開催の役員会、並びに昭和61年1月30日開催の総会に於て、新役員が目度く決定せられました。

思えば長い長い医師会関係でございました。戦後昭和22年新制医師会結成に際し、小野寺素行先生の御指導のもとに、岩手郡医師会結成に参画し、以来満40年を経過いたしました。

この間色々な出来事があり、言葉には言い尽せません。苦労の連続で会員の皆様に色々御迷惑をおかけいたしました事を心からお詫び申し上げます。

40年の概要是次の通りです。

(イ)	岩手郡医師会副会長	8年
(ロ)	〃 理事	6年
(ハ)	〃 会長	12年
(ニ)	岩手県医師会理事	19年

この間に於ける役員より賜わりました御援助並びに御指導御鞭撻に対しまして厚く御礼を申し上げ、退任の御挨拶といたしますと共に、新役員の御健斗を心から御祈り申し上げます。

長い間ありがとうございました。

一般行事関係報告

1. 日医関係

- (イ) 6月21日
退職者医療制度に伴なう国保運営委員について
(ロ) 7月8日
日本医師会最高優功候補者の内申について
(ハ) 10月12日
厚生省の行なう薬価調査非協力について
(ニ) 11月15日
10月12日通知の薬価調査非協力の件、厚生省との協定の結果あらためて協力することに決定

診療報酬診査委員選考委員会（内科関係）

- (i) 選考委員 秋浜先生
(ii) 委員候補者 佐藤郁郎先生
(リ) 5月12日
会員並びに家族の1日人間ドックについて
(ヌ) 5月25日
学校医部会幹事会 秋浜理事出席
(ル) 5月31日
救急医療懇談会 及川忠人理事出席
(ヲ) 6月12日
(i) 日本脳炎の予防接種について
(ii) ツツガ虫病の発生と予防対策について
(ワ) 6月14日

2. 県医関係

- (イ) 4月17日
岩手県医師会総会に於ける表彰者の内申について
(ロ) 4月19日
該当者なし
第1回医政問題協議会
(i) 最近の医療情勢について
(ii) 医療法改正の問題点について
(ハ) 5月1日
医政連盟執行委員会及び郡市会長合同
(ニ) 5月4日
臨床検査精度管理調査について
(ホ) 5月11日
産業保健研修会並びに塩野義製薬金ヶ崎工場視察について 西嶋先生出席
(ヘ) 5月14日
労災部会幹事会 早藤理事出席
(ト) 5月18日
医事紛争対策委員会 会長出席
(チ) 5月18日

- 診療報酬診査委員選考委員会（内科関係）
(i) 選考委員 秋浜先生
(ii) 委員候補者 佐藤郁郎先生
(リ) 5月12日
会員並びに家族の1日人間ドックについて
(ヌ) 5月25日
学校医部会幹事会 秋浜理事出席
(ル) 5月31日
救急医療懇談会 及川忠人理事出席
(ヲ) 6月12日
(i) 日本脳炎の予防接種について
(ii) ツツガ虫病の発生と予防対策について
(ワ) 6月14日
救急医療週間の協力について
(カ) 6月24、25日
医療機関の個別指導について
(ヨ) 6月26日
親睦野球大会の表彰選手の内申について
10年選手として佐々木久夫先生を内申す。
(タ) 6月30日
第37回岩手医学会総会並びに第74回岩手医学会春季総会開催
(レ) 7月6日
医政問題協議会開催
(ソ) 7月11日
勤務医部会幹事会開催
(ツ) 7月13日
佐藤（郁）理事出席
釜石市小白浜に於て海釣大会開催
宮杜、山崎の二氏参加
(メ) 7月14日
1日人間ドック開催
(ナ) 8月8日
学術担当理事会開催 上田理事出席

- (ラ) 9月14日 産業医部会幹事会 西嶋先生出席
- (ム) 10月16日 労災医部会 (早藤理事出席)
- (ウ) 10月18日 健康教育委員会開催 高橋（孝）先生出席
- (ヰ) 10月25日 事務局長合同開催 山崎氏出席
- (ゾ) 11月10日 1日人間ドック開催
- (オ) 11月15～17日 医家芸術展開催 当会員長谷川、高橋（孝）両先生出展
- (ク) 11月16日 産業医部会並びに産業医講習会開催 西嶋先生出席
- (ヤ) 11月17日 下記の学会開催 会員15名出席
- 記
- (i) 第75回岩手医学会秋期医学会
- (ii) 日医医学講座
- (iii) 厚生省健康政策局主催救急医学講習会
- (マ) 11月21日 県医師会と岩手県との懇談会
- (ケ) 12月 6日 保険問題協議会 高橋（牧）理事出席
- (フ) 12月 10日 医政執行委員会議
- (コ) 1月 7日 日医代議員及び県医役員の選挙について
- (エ) 1月 18日 産業医幹事会及び関係機関との打合せ 西嶋先生出席
- (テ) 1月 19日 (i) 学校医幹事会 秋浜理事出席
(ii) 学校医大会
- (ア) 2月 1日 勤務医部会幹事会並びに江刺医師会勤務医との懇談会
- (サ) 2月 7日 郡市医師会長合同並び医政連盟執行委員会
- (キ) 2月 13日 広報委員会 鳩 理事出席
- (ユ) 2月 22日 県医代議員会開催 新役員決定す
- (メ) 3月 19日 保険問題協議会 高橋（牧）理事出席
- (ミ) 3月 25日 岩手県医師会勤務医部会設立10周年記念総会開催
- (シ) 3月 25日 福祉担当理事会開催 坂井理事出席

(イ) 4月13日

玉山村公民館に於て管内各町村と予防接種の契約を行なう。

(ロ) 4月19日

岩手県医師会総会に於ける表彰者は該当なしと報告

(ハ) 5月15日

盛岡市に開催の救急医療協議会に及川理事出席

(二) 5月25日

医師賠償責任保険未加入者の入会について
(ホ)昭和60年5月末6名の未加入者ありたるも
昭和61年3月には2名となる。

(ホ) 6月30日

第37回岩手県医師会総会並びに第74回岩手
医学会総会開催 会員多数出席

(ハ) 7月9日

ツツガ虫病の発生予防について会員に文書
にて警告

(ト) 7月20日

岩手県医師会親睦野球大会に於ける表彰選
手を内申す。

10年選手 佐々木久夫先生

(チ) 7月20日

来るべき県医師会親睦野球大会にそなえて、
盛岡市内薬店外交員連合軍と零石町に於て
練習試合を行なう。

若い外交員軍強く吾等医師会チーム勝利を
収め得ず。

終了後鶯宿温泉にて懇親会を開催

(リ) 8月25日

県主催盛岡市医師会担当の第37回岩手県

医師会野球大会

盛岡市零石川河川敷グランドを会場として

行なわれ、岩手郡医師会チームも近藤総監督以下平素の実力を發揮せんと自信満々優勝を期して参加

吾軍メンバーは次の通り

No.	ポジション	参加者氏名	年令
1	総監督	近藤純造	63
2	監督	高橋牧之介	55
3	投手	岡田信親	37
4	捕手	上原充郎	43
5	内野	佐藤郁郎	56
6	"	高橋司	42
7	"	西嶋康之	51
8	"	土谷正彦	29
9	"	嶋信	44
10	外野	佐々木久夫	46
11	"	遠藤哲夫	36
12	"	篠村達雅	40
13	"	瓜田明義	48
14	"	宮沢護	52
15	"	小林仁	31

戦績 盛岡Aに7対1で敗退

(ヌ) 9月28~29日

救急医療協議会を開催

(1) 場所 鶯宿温泉 観光ホテル

(2) 参加者

郡医師会役員

郡内救急指定医療機関の長

各町村保健課長

各町村消防分署長

岩手県消防長

盛岡消防署長

会議は消防署、町村会員より有意義な意見の開陳あり。

(ル) 9月26日

昭和60年度県民健康講座松尾会場の開催準備のため、下記の通り協議会を開催す。

記

- 1) 場 所 東日本ホテル
- 2) 出席者 松 尾 村 長
松尾村保健課長
岩手保健所長
岩手保健所総務課長
郡医師会側
会長、土谷、近藤両副会長
高橋（孝）理事、及川理事
- 3) 松尾会場運営委員長は及川理事と決定
同会長運営委員は下記の通り
平野修一、嶋 信
上田靖彦
岩手保健所総務課長
松尾村保健課長

(ヲ) 11月 9 日

学校医と養教の懇談会開催

- (i) 会 場 玉山中央公民館
- (ii) 参会者 約 6 0 名
- (iii) 講 師
県教委 秋元体育保健課長
玉山村 玉山教育長
玉山村巻堀小学校長 佐々木新市
玉山村 岡本病院長

尚、本懇談会に於て最近「マスコミ」に連日報道せられている学校に於ける「いじめ」の問題につき、参加各位より活発なる発言あり、又現に岩手郡内中学校に於ても自殺者発生しあり。

参加者中教職にある方は「いじめ」の抜本解決よりも、いじめられた児童の取扱いに重点を置かれており、本末顛倒の感ありて残念なりき。

各人各位すべての国民が「いじめ」の問題に取り組み、その絶滅を期するを要す。

(ワ) 11月 15 日

監事により昭和59年度の下記の監査を受く。

記

- 一 般 会 計 (別紙 1)
休祭日当番医補助金会計 (別紙 2)
特 別 会 計 (別紙 3)

(ガ) 11月 19 日

東日本ホテルに於て臨時総会を開催し、昭和60年度の一般会計、休祭日当番医補助金会計、特別会計、の議決を受く。

(ゴ) 11月 19 日

臨時総会に引き続き昭和60年11月迄に受賞せられたる会員の祝賀会を行なう。

参会者 3 6 名

尚、来賓として県医師会三浦会長、加藤、佐藤両副会長の御出席をいただきたり。
本年度受賞者下記の通り。

記

- 近藤 純造 昭和 5 9 年 1 1 月
葛巻町より町勢功労者賞
昭和 6 0 年 1 月
読売新聞社より地域医療功労賞
昭和 6 0 年 7 月
葛巻町より保健部門功労者賞
早藤 一雄 昭和 6 0 年 7 月
葛巻町より保健部門功労者賞
和田 栄吉 昭和 5 9 年 1 1 月
岩手県教育委員賞
昭和 6 0 年 6 月
岩手町より町勢功労者賞
二瓶 秀男 昭和 5 9 年
岩手県知事表彰
土井尻正次 昭和 6 0 年 1 1 月
滝沢村より村勢功労者賞

- 高橋 孝 昭和60年 2月
岩手県国保運営協議会表彰
- 上野 精三 昭和60年 4月
勲五等双光旭日章叙勲
- (ヨ) 1月30日
定時総会を県医師会館に於て開催し、新役員の選挙を行なう。
新役員下記の通り選出せらる。
- 記
- | | |
|--------------------|---------------|
| (i) 県医師会理事候補者 | 高橋牧之介 |
| (ii) " 裁定委員候補者 | 近藤 純造 |
| (iii) " 代議員 | 土谷 邦彦 |
| " | 根本 忠夫 |
| (iv) " 予備代議員 | 佐々木久夫 |
| " " | 杉本圭士郎 |
| (v) 会長 | 宮杜 亨 |
| (vi) 副会長 | 近藤 純造 |
| " | 上田 靖彦 |
| " | 高橋牧之介 |
| (vii) 理事 | 佐藤 郁郎 |
| | 西嶋 康之 |
| | 坂井 博毅 |
| | 及川 忠人 |
| | 嶋 信 |
| | 瓜田 明義 |
| | 八角 正司 |
| | 高橋 孝 |
| | 根本 忠夫 |
| (viii) 監事 | 佐渡 豊 |
| | 佐藤 尚孝 |
| | 長谷川貫一 |
| (ix) 支部長
副会長の兼任 | |
| (x) 議長
副議長 | 早藤 一雄
高橋 司 |
- (タ) 2月1日
県医師会に代議員及び予備代議員の報告をなす。
- (レ) 2月2日
県主催盛岡市医師会担当の第3回岩手県医師会親睦スキー大会が、盛岡ハイランドスキー場で挙行せられ、本会より嶋、上原、篠村の三会員と家族11名参加す。
出場者全員入賞し、大会の賞品の約2分の1を岩手郡医師会に於て受賞し、スキー場王国の面目を施す。
- (ソ) 2月3日
県医理事及裁定委員の立候補を届出をなす。
県医理事候補者 高橋牧之介
県医裁定委員候補者 近藤 純造
- (ツ) 1月29日より2月26日の5日間に亘り、県民健康講座松尾会場を開講し2月26日閉講す。講座の内容別紙(4)の通り。
本講座の開講に際し松尾村当局より賜りたる暖かき御厚情に対し深甚なる謝意を表します。
- (メ) 3月22日
休会中の総会を東日本ホテルにて開会し、新役員による下記の議案を議決する。
- 記
- ① 昭和60年度事業計画
 - ② 昭和60年度一般会計予算
 - ③ 昭和60年度休祭日補助金会計
- 以上3件の詳細は別紙の
- (ナ) 総会終了後退任の下記の役員に対し謝恩の会を開催す。
- 記
- | | |
|------|------------|
| 前会長 | 上野 精三 |
| 前副会長 | 土谷 邦彦 |
| 前理事 | 秋浜 晃 |
| 前監事 | 伊藤 穎二 (欠席) |

(ラ) 3月25~26日に下記の通り新点数説明会を開催す。

記

(i) 3月25日

- (1) 会場 岩手町五日市
生活改善センター
- (2) 参会者 第一部及び第二支部
- (3) 講師 保険担当理事
高橋(牧)先生

(ii) 3月26日

- (1) 会場 滝沢村中央公民館
- (2) 参会者 第三支部
- (3) 講師 保険担当理事
高橋(牧)先生

本説明会開催に際し保険担当理事高橋牧之介先生の御苦労に対し会員一同を代表し厚く御礼を述べる。

(ム) 3月12日

新役員協議会を開催、下記につき協議す。

- (i) 郡会費について (別紙6)
- (ii) 昭和61年度事業計画 (別紙5)
- (iii) 昭和61年度一般会計予算 (別紙7)
- (iv) " 休祭日当番医補助金予算 (別紙8)

尚新会長より新役員に対し担任業務の指令をなす。

- | | |
|-----------|--------|
| 生涯教育委員 | 上田 靖彦 |
| " | 瓜田 明義 |
| 広報委員 | 嶋 信 |
| 医事紛争対策委員 | 上野 精三 |
| 保険問題協議会委員 | 高橋 牧之介 |
| 健康教育委員 | 八角 正司 |
| 学校医部会役員 | 高橋 孝 |
| 勤務医部会役員 | 佐藤 郁郎 |
| 産業医部会役員 | 西嶋 康之 |

労災部会役員	根本 忠夫
労務厚生委員	坂井 博毅
救急医療部委員	及川 忠人
岩手医学会役員	上田 靖彦
医師国保議員	和田 栄吉

最後に新執行部に御願い

昭和60年度事業計画に於て松尾村・安代町の2ヶ所に於て県民健康講座を実施すべく計画し、理事会の承認を得て総会に提出し議決を得た次第でした。

然し、前述の如く松尾村は石羽根村長外保健課の各位の絶大なる御援助のもと、盛会裡に終了することが出来ましたが、総会で議決せられてある安代町の健康講座については遂に実施することが出来ず、甚だ残念であった。

これは執行部である会長外全役員の重大なる責任でありましてここに深くお詫びを申し上げます。

安代町は県の広域行政の関係で二戸郡より岩手郡に入っております。但し行政全部ではなく教育関係だけは除かれて居ります。
私共郡医師会執行部として岩手郡内全町村が健康講座を終了し、安代町未終了という結果になって、安代町民に対し甚だ申し訳ないこととなりました。

これを結果的にみますと、

- ① 執行部の責任
- ② 安代町伊藤禎二先生が安代町の講座は安代町在住の先生だけで実施するものと誤解して居た点があります。
- ③ 安代町は県内最大の自他共に認めるスキー王国であります。従って1~2月の候にはスキー客収容のため、会場の困難とその接待のため参加者の集りが困難なりとのことです。もっともの事です。

私共執行部もこの点認識不足でした。この点あらためて御詫びいたします。

新執行部におかれではこの点を考慮の上、安代町の健康講座だけはスキーシーズンに入る前の11月頃に会場を新町と田山に分け、1ヶ所50人程度として計画なさる必要があるのではないかと察せられます。日数も5日でなく2~3日としてお考えいただきたいと思います。

新執行部の皆さんよろしく御検討願います。

予防医学協会関係

下記の通り1日人間ドック開催

記

5月12日、	7月14日
11月10日、	2月16日

医師信金関係

- (i) 12月2日組合議員の選出方依頼あり。
組合員と協議の上、下記の者全員再任と決定す。

記

上野 精三	早藤 一雄
土谷 邦彦	宮杜 亨

- (ii) 12月19日岩手町奈良屋に於て開催の役員会に引き続き、医師信金側より萩野理事長、松原常務理事出席のもとに懇談会を開催す。
信金側より多大なる御配慮に預る。
厚く御礼申し上げます。

- (iii) 1月4日事務委託費の送金あり。

保健所関係

- (i) 8月30日松尾村に於て岩手保健所管内環境衛生大会開催せらる。
会長出席祝辞を述べる。
- (ii) 11月9日麻薬中毒患者発生の際の届出に

ついて通知あり。

- (iii) 11月19日玉山村に於て盛岡保健所管内環境衛生大会開催せらる。
会長出席祝辞を述べる。

部外関係

- (イ) 全日本ホルスタイン共進会長より
(会長 中村知事)
昭和60年10月10~14日滝沢村産業文化センターに於て開催せらるゝ全日本ホルスタイン共進会に際し救護班の派遣方依頼あり。
滝沢村の会員と協議の上、下記の通り救護班を派遣す。

記

10月10日	午前	高橋牧之介
	午后	山田わか子
10月12日	午前	上野 精三
	午后	秋浜 晃
10月13日	午前	矢追 博美
	午后	土井尻健一

(ロ) 一関医師会

11月1日一関医師会より定款改正について参考意見を求める。
当医師会の定款改正迄の内容を通知す。

(ハ) 県警本部

11月7日泥棒の予防について、特に医療機関は昼食時泥棒が入り易いので麻薬の管理に注意のこと。

(ニ) 岩手紫波教育事務所長

管内各町村の生涯スポーツ推進のため協議会を結成いたし度につき、岩手郡医師会より委員1名推せんせられたい旨要望あり。
役員会に計り下記の者を推せんす。

記

零石町	上原充郎
-----	------

老人の記憶に残る昔のよい事、かなしい事

2例

1. 昭和の初め盛岡市否、岩手県に只1軒の「カフェー」が肴町にありました。その名は「カフェー文化」と記憶して居ります。齢17~20才位の美人が14~15名程サービスガールとして働いて居りました。私共医学生は毎夜20人程美人のサービス（純真の）を受けるべく通うのです。当時の彼女達の生活の実態は下記の通りです。

女給の家計簿	
当時働く女性の月収は、デパート店員二十五円、女学校教師五十円、	女工二十二円、ダンサー一百円ぐらいであった。つぎは女給家計。
月収、お客様からのチップ（給料なく収入は全部チップです）六十円、	支出、衣裳代（錦紗のお召に綿ドレス、これがコケットの唯一の資本です）四十円、お化粧代一円、借間代（友人と）五円、食事代（夕食は店で十二円、通勤費（市電回数券）四円五十銭、質屋利子払い一円二十銭、おこづかい二円、弁償代（たちの悪い客のふみ倒した勘定）残り全部チップです）六十五円。
（昭和七年二月）	（昭和七年二月）

私達の同窓生何人かは彼女達と結婚して、昭和20年代のクラス会には同伴で参りましたよ。

今、そこらあたりにある「カフェー」の女給さんとは素姓も教養？も違って居りましたよ。

たよ。

2. 昭和20年前後（17~25年の間）の日本の物資不足の状況は誠に惨憺たる状況であったらしい。らしいと言うのは老生當時中華民国で暮して居りました。

昭和19年当時、私達派遣軍も物資不足で悩まされました。

当時私達の食生活の状況を簡単に書いてみますと下記の通りでした。

記

主食について

(イ) 外地に来て6ヶ月未満

1日量米麦（1日量米4合麦2合）を1日2食で1食は代用食

(ロ) 外地に来て6ヶ月過ぎた者

(i) 30才未満 米麦 1日1食
代用食1日2食

(ii) 30才以上の者

1日3回代用食

(ハ) 最近盛岡市内の食堂にも「すいとん」

というものが復活して来たようです。

「すいとん」には次の6種類があります。

為念。

1. すいとん
2. はっと
3. ひっつみ
4. とてなげ
5. くみとり
6. たれながし

(ニ) 代用食の主力となった犬のおいしさは下記の順序です。

1. 白（除スピッツ）
2. 赤
3. 黒
4. 胡麻（ごま）
5. 斑（ぶち）

(木) 衣料品について

一時内地では切符制でした、今店頭にかぎられてある色とりどりの衣料品をみますと当時のことが考えられ驚き入ります。昭和22年新制医師会結成の際、参会する若い会員は皆肩章のない兵隊の服でした。古い戦前からの会員だけは背広服で、当時背広の調製も全く不能の時代でした。会議は恰かも捕虜収容所の円卓会議のようでした。然し一旦酒が入ると兵服の若い会員は仲々元気なものでした。今の若い会員は少しおとなし過ぎませんか。但し酒の呑みすぎ、酒乱は駄目。

(水) 衣料品の切符制度の状況下記の通り。

手拭	手巾	あわせ	・長じゅばん・綿入・丹前	四八点
手巾	手巾	背広	・モーニング・燕尾服の三ツ揃い	五〇点
手巾	手巾	国 民 服	・学生服の上下	三二点
手巾	手巾	婦 人	ワンピース	二五点
手巾	手巾	男 女	学童服の上下	二二点
手巾	手巾	労 働	作業衣・防空服	一一点
手巾	手巾	海 水	着	一八点
手巾	手巾	モ ン ベ		四点
手巾	手巾	ワ イ シ ャ ツ		二点
手巾	手巾	靴 下	・ 靴 下	二点
手巾	手巾	カ バ ー		二点
手巾	手巾	二 四 点		二点
手巾	手巾	三 三 点		二点
手巾	手巾	一〇 点		二点
手巾	手巾	ま で		二点

切符に泣く

衣料が総合切符制になつたのは、大東亜戦争がはじまつた次の年、昭和十七年二月一日からである。鮮魚が自由販売でなくなったのも、同年六月からのことである。砂糖、味噌、食塩、肉、卵などもつきつぎに配給割り当て制となつた。糖分に飢えた子供たちに親が土産に持つて帰れるものは、病人用のぶどう糖、病人用に西瓜を煮つめてつくったドロドロの西瓜糖、それに干しバナナと称する真黒のにがい変な味の菓子まで登場した。米が割当帳制になつたのは、東京・大阪などの六大都市こそ、昭和十六年の春だが、全国的には、衣料の切符制と相前後して、昭和十七年からであった。衣料切符の点数は年齢・性・職業の別なく、一人につき一年間で都市百点、郡部八十点だった。以下は買うに必要な点数である。

昭和十七年二月一日

別紙1.

一般会計決算書

1) 収入の部

科 目	5 9年度予算額	5 9年度決算額	摘要
繰 越 金	1, 000 円	131, 795 円	
会 費	2, 520, 000	2, 560, 000	A会員5万円×35人=175万円 B会員3万円×26人=78万円 B会員1万円×3人=3万円
補 助 金	90, 000	30, 000	県医より
雑 収 入	3, 000	21, 200	利息外
合 計 額	2, 614, 000	2, 742, 995	

2) 支出の部

科 目	5 9年度予算額	5 9年度決算額	摘要
会 議 費	700, 000 円	812, 455 円	総会 3回 318, 560 円 役員会 4回 393, 895 部会 2回 100, 000
事 務 費	680, 000	524, 879	副会長支部長通信費 3万円×6人 180, 000 円 役員行動費 125, 340 通信費 118, 270 消耗品費 101, 269
広 報 発 行 費	545, 000	167, 100	印 刷 外
旅 費	500, 000	496, 400	役職員旅費
交 際 費	100, 000	240, 380	監査諸掛 23, 340 円 社会福祉協議会 60, 000 広 告 50, 000 野球打合せ 30, 000 そ の 他 77, 040
慶弔費	30, 000	75, 430	おくやみ 花輪外
予 備 費	59, 000	30, 200	スキービー大会外
合 計 額	2, 614, 000	2, 346, 844	

収入合計額 2, 742, 995 円 - 支出合計額 2, 346, 844 円 = 差引合計額 396, 151 円は次年度に繰越す。

昭和 60 年 11 月 15 日

岩手郡医師会会长 上野 精三

別紙2.

休 祭 日 決 算 書

1) 収 入 の 部

科 目	5 9 年度予算額	5 9 年度決算額	摘要
繰 越 金	1, 000 円	26, 812 円	
補 助 金	3, 300, 000	3, 303, 000	
雑 収 入	10, 000	12, 892	銀行利子
合 計 額	3, 311, 000	3, 342, 704	

2) 支 出 の 部

科 目	5 9 年度予算額	5 9 年度決算額	摘要
報 酬 費	2, 386, 000 円	2, 476, 701 円	研修費 300, 000 円 健康教育費 390, 000 救急対策費 433, 179 県医野球 451, 408 ゴルフ 40, 000 海釣り 24, 000 校医と養教懇 242, 190 合同研修費 595, 924
需 用 費	350, 000	350, 700	会議費 340, 000 円 消耗通信費 10, 700
旅 費	210, 000	195, 000	役職員旅費
役 務 費	54, 000	24, 000	
予 備 費	311, 000	270, 000	スキー大会
合 計 額	3, 311, 000	3, 316, 401	

収入合計額 3, 342, 701 円 - 支出合計額 3, 316, 401 円 = 差引合計額 26, 303 円は次年度に繰越す。

昭和 60 年 11 月 15 日

岩手郡医師会
会長 上野精三

別紙3.

特別会計決算書

(1) 収入の部

(2) 支出の部

科 目	金 額	科 目	金 額
繰 越 金	1, 045, 165 円	健康教育講座	821, 380 円
県 医 よ り	1, 033, 616	ス キ 一 大 会	511, 805
健康教育講座	450, 000	ユ ニ ホ 一 ム	341, 650
医師信金委託料	216, 000	岩手医学会会費	240, 000
医 師 国 保	24, 000	新 点 数 説 明 会	201, 860
雜 収 入	19, 506	祝 賀 会	110, 640
		保 健 改 正 説 明 会	99, 900
		県医総会参加料外	220, 875
合 計	2, 788, 287	合 計	2, 548, 110

収入合計額 2, 788, 287 円 - 支出合計額 2, 548, 110 円 = 差引合計額 240, 177 円は次年度に繰越す。

昭和 60 年 11 月 15 日

岩手郡医師会

会長 上野精三

講演会

主催 岩手県、岩手県医師会
 担当 岩手郡医師会
 会場 松尾村役場 3階大会議室
 日時 昭和61年1月29日～2月26日

昭和60年度岩手県民健康講座岩手郡松尾会場カリキュラム

回	開催年月日	場 所	講 座 内 容	時 刻	担 当 講 師	所 所	属
1	61. 1. 29	松尾村役場 3階大会議室	開 講 式 ① 上手に医師にかかるには ② 歯の役割と健康 ③ 小児科のあれこれ	13:00～13:30 13:40～14:10 14:20～15:10 15:20～16:10	上 野 木 野 鈴 平 精 信 修 一 三 頭 一	上 野 田 八 上 東 野 齒 櫛 橋	松 尾 村 長 岩手郡医師会長 医 院 医 院 病 院 院 院 院 院
2	61. 2. 5	同 上	① 脳卒中のリハビリテーション ② ねたきり老人の介護 ③ 健康づくりと栄養	13:00～13:30 14:00～14:50 15:00～15:50	及 川 忠 初 畑 大	東 八 幡 同 手 岩	八 幡 平 病 院 上 手 保 健 所 (松尾村) (岩手町)
3	61. 2. 12	同 上	① 仕事と健康 ② 急性腹症について ③ 糖尿病について	13:00～13:50 14:00～14:50 15:00～15:50	佐々木 茂 秀 一 二 姜	松 尾 八 幡	岩手大教養部助教授 診 療 所 (松尾村) (〃)
4	61. 2. 19	同 上	① 胃腸病について ② 虚血性心疾患について ③ 老年期の精神衛生について	13:00～13:50 14:00～14:50 15:00～15:50	上 田 靖 彦 秋 浜 本 岡	西 根 浜 本	根 病 医 岡 本 病 院 (西根町) (玉山村) (〃)
5	61. 2. 26	同 上	① 救急医療について ② 中高年の健康管理 ③ 胃がんと大腸がんについて 開 講 式 (修了証書授与)	13:00～13:40 13:50～14:30 14:40～15:20 15:30～16:00	土 谷 邦 彦 嶋 八 角	谷 彦 信 司 土 嶋 八 角	病 医 医 院 院 院 院 (西根町) (玉山村) (玉山村)

別紙 5

昭和 61 年度事業計画書（案）

医療経営のきびしい現況のなかで地域の保健と医療に尽力すべく会員の融和を深め、団結を強固にし互に切磋琢磨、医学技術の向上を促進し、人間味豊かな学術団体としての発展を期す。

次の事項を重点事業として行う。

1. 岩手県医師会事業との全面的協力

- (1) 特に政治力強化の為、医師連盟に対し強力なるバックアップをする。
- (2) 医学総会、医学会等の参加

2. 地域医療保健事業の推進

(1) 学 校 保 健

- イ 小一、中一、高一の循環器検診（継続）
- ロ 養護教諭との学校保健懇談会開催（継続）
- ハ 貧血検診推進（新規）

(2) 老人保健法ヘルス事業との対応

(3) 健 康 教 育

3. 関係地方行政機関との緊密化を推進

4. 災害救急医療体制作り

5. 産業医活動の充実

- (1) 有機溶剤取扱者の検診
- (2) メンタルヘルスケアー等の対応
- (3) 産業医講習会、見学会等の参加

別紙 6

昭和61年度会費の額、納入の期日、徴収の方法について

1. 会 費 の 額 1. A 会 員 50,000 円

 2. B 会 員 30,000 円

2. 納 入 の 期 間

A 会 員 昭和61年4月30日までに完納のこと。

B 会 員 1 期 4月30日までに納入のこと。

 2 期 8月31日までに納入のこと。

 3 期 12月30日までに納入のこと。

3. 徴 収 の 方 法

A 会 員 一括して徴収する。

B 会 員 3期に分割して徴収する。

4. 納 入 場 所

御明神診療所又は岩手銀行雫石支店とする。

参 考

B会員の会費内訳

	日本医師会費	県医師会費	郡医師会費	合 計 費
1 期	7,400 円	15,000 円	10,000 円	32,400 円
2 期	7,300	15,000	10,000	32,300
3 期	7,300	15,000	10,000	32,300
合 計	22,000 円	45,000 円	30,000 円	97,000 円

別紙7.

昭和61年度一般会計予算書(案)

1) 収入の部

科 目	金 額	摘 要
繰 越 金	1,000 円	
会 費	2,520,000	A会員 5万円×34人=170万円 B会員 3万円×27人= 81万円 1万円× 1人= 1万円
補 助 金	90,000	地域医療3万円 学校医6万円
雑 収 入	10,000	利 息
合 計	2,621,000	

2) 支出の部

科 目	金 額	摘 要
会 議 費	950,000 円	総会 2回 50万円 役員会 2回 20万円 部会 5回 25万円
事 務 費	450,000	副会長、支部長通信費 3万円× 3人= 9万円 役員連絡費 1万5千円× 12人= 18万円 通信費 6万円 消耗品費 6万円 印刷費 6万円
広 報 発 行 費	365,000	編集費 4回 8万円 印刷費 4回 24万円 発送費 4回 4万円 雑費用 5千円
旅 費	570,000	役職員旅費
交 際 費	200,000	
慶弔費	50,000	
予 備 費	36,000	
合 計	2,621,000	

別紙8.

昭和61年度休祭日当番医予算書(案)

1) 収入の部

科 目	金 額	摘 要
繰 越 金	1,000 円	
補 助 金	3,350,000	
雑 収 入	10,000	利 息
合 計	3,361,000	

2) 支出の部

科 目	金 額	摘 要
報 償 費	2,595,000 円	各支部 10万円×3支部=30万円 健康教育費 5千円×67人=33万5千円 急救対策費 35万円 県医野球大会 40万円 県医ゴルフ大会 5万円 " 海釣り大会 3万円 " スキー大会 3万円 校医と養教懇談会 30万円 合同研修会 60万円 厚生対策費 20万円
需 用 費	350,000	会議費 10万円×3回=30万円 通信費、消耗品費 5万円
旅 費	210,000	役職員旅費
役 務 費	54,000	三支部 8千円×3人=2万4千円 通 信 費 3万円
予 備 費	152,000	
合 計	3,361,000	

編 集

暫くの間、医報の発刊を休んでいましたが、このたび、休刊中の会務の諸報告を一挙に、言わば、集大成として、本号を発刊しました。

本医報の原稿は、長い間上野会長が自ら執筆しておられましたが、このたびもまた、膨大な原稿の全部を、お一人で執筆されました。

○

上野会長は夙に辞意を表明しておられましたので、この医報は、上野会長の下における最終の記念すべき医報となるのであります。

○

本医報の最初に述べられておられるように、上野会長は、郡医師会の副会長・理事・会長として合計26年間。またその間に、県医師会理事として19年間の長期に亘って、県・郡の医療の充実改善のため尽力せられ、その功績は甚大であつて、吾等は日頃、崇敬感謝いたしておりました。

後 記

このたび会長職は勇退せられましたが、ご健健にて本会のため、また吾等後輩のため、何分のご助言、ご指導を賜わりたく切望いたします。

○

会長の更迭に伴い、編集子も交替するのが至当であると思いますので、編集子にとっても、これが最後の編集後記となることにさせていただきます。

編集担当の期間中は、いろいろと不行き届きの点が多くなったことをお詫び申し上げると共に、各位のご協力に対し感謝の意を表して擱筆いたします。

(高橋牧之介)